

● 授業科目の
内容紹介

教職に関する科目

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教師論		2	日英音	1	小長井邦男

I 主題

この授業では、教職の意義、役割、職務内容などを学び、教師を目指す者としての資質を身につける。

II 授業の到達目標

- 1.義務教育の使命を認識し、教師としての使命を自覚できる。
- 2.教師の職務内容を知り、研究と修養の必要性を理解できる。
- 3.教師に必要な同僚性を認識し、自らの人間性を高めることができる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者になるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校二種を取得するための必修科目である。

項目 内容

1. 私の心の中の教師	教師として目指す姿の具体
2. 教師の仕事①	優れた教師の条件
3. 教師の仕事②	校務分掌 法的な根拠
4. 教師の一目、一週間、一年	日課表、週課表、年間指導計画
5. 学級担任の仕事①	授業と学級事務
6. 学級担任の仕事②	多様な事務内容
7. 学習指導①	学習指導要領
8. 学習指導②	学習指導案
9. 学習指導③	子どもの表れと板書
10. 生徒指導①	生徒指導の意義
11. 生徒指導②	問題行動への対応
12. 教職員の身分	公務員 県費負担教職員
13. 教職員の服務	職務上の義務 身分上の義務
14. 職員会議と研修	教育公務員特例法 学校管理規則
15. 教師への道	採用試験

V 使用テキスト・教材等

教職の意義と職務 改訂版
その他プリントは講義中に配付

森 秀夫著 学芸図書株式会社

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 學習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100%	60	20		20	
義務教育の使命、教師の使命の理解	○	○		○	
教師の仕事の理解	○	○		○	
教職員の身分や職務内容の理解	○	○		○	
求められる教師の資質の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教育学概論		2	日英音	1	小長井邦男

I 主題

この授業では、教育の目的、理念、方法及び制度などを学び、学校教育の基本的な考え方を身につけ、教育的資質を高める。

II 授業の到達目標

- 1.教育の目的、理念を理解できる。
- 2.学校教育の方法や制度を理解できる。
- 3.現代課題である「開かれた学校」「生きる力の育成」などを理解できる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者になるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校二種などを取得するための必修科目である。

項目	内 容
1. 教育の目的・理念	教育基本法 義務教育
2. 学ぶということ	学問のスメ 建学の精神
3. 学習指導要領	法的根拠
4. 「生きる力」のイメージ	「学力」「心」「体」の総合力
5. 「生きる力」と学校教育	「学力」だけに特化しない学校
6. 「生きる力」をはぐくむ学級経営	学級目標 教室環境
7. 子どものよさを伸ばす生徒指導	人間尊重 カウンセリングマインド
8. 「確かな学力」と教科指導	指導と支援 学習指導案
9. 「豊かな心」と道徳教育	徳教育の重要性
10. 「社会性」と特別活動	特別活動の内容
11. 合的な学習」のねらい	「生きる力」との関係
12. いろな教育評価	教育評価のねらい=指導に生かす
13. 制度と教育行政	日本の学校制度
14. や地域社会と学校	様々な連携組織
15. 支援教育	障害のある子どもへの教育

V 使用テキスト・教材等

教育原理 教師養成研究会 学芸図書株式会社

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 學習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100%	60	20		20	
教育の目的、理念などの理解	○	○		○	
学校教育の概観の理解	○	○		○	
学校制度、教育行政の理解	○	○		○	
現代の教育課題の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教育心理学		2	日英音	1	金子泰之

I 主題

教育心理学の基本的知識を獲得する

II 授業の到達目標

- 1.教育現場で起きている子どもに関する問題の実態を具体的なテーマから理解する
 - 2.発達、学習、集団、適応、評価、の5つ領域から教育心理学を理解する
 - 3.いじめ、虐待、発達障害、問題行動などから中学生の発達的特徴を具体的に理解する

III 授業の概要

学校現場に関する問題を通して中学生の発達的特徴と発達に応じた支援方法を学ぶ。

IV 授業計画と内容

授業計画と内容	内 容
1. 教育心理学とは	教育心理学を概観する
2. 発達(1)	生涯発達の視点から子どもを理解する
3. 発達(2)	発達障害を持つ子の世界
4. 発達(3)	発達障害への対応と支援
5. 評価	発達検査と発達障害
6. 学習(1)	学習理論と教育
7. 学習(2)	記憶と学習
8. 動機づけ	やる気の構造
9. 学校集団(1)	学校といじめ
10. 学校集団(2)	いじめの構造とプロセス
11. 学校集団(3)	いじめ被害者と加害者への対応
12. 適応(1)	学校の荒れ
13. 適応(2)	子どもの問題行動と特徴
14. 適応(3)	生徒指導と問題行動
15. 家庭と学校	虐待と子ども

V 使用テキスト・教材等

授業中に資料を配布する。

VI 参考書・参考資料

参考書 参考資料 必要に応じて授業中に参考書を案内する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価の方法及び基準		試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他()
学習項目	成績評価方法					
配点比率(%)	合計 100	40		30	30	
教育心理に関する知識の理解	○					
中学生の発達的特徴の理解	○			○	○	
中学生への支援方法の理解	○			○	○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

教育に関する記事やニュースに目を通しておくこと
授業で配布した資料を読み返し、復習しておくこと

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

実習には意欲的に参加すること。意見を求められたら積極的に発言すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
国語科教育法		2	日	1	平井修成、中村国男

I 主題

中学校における国語教育の理論と実際を学ぶ。

II 授業の到達目標

- 1.「中学校学習指導要領」を十分に理解する。
- 2.教材を教授する基盤となる読解力や知識を身に付ける
- 3.教材を教授する技術・指導力を涵養する。

III 授業の概要

教壇に立つ能力を身に付けることを目標に、主として実践的授業体験を蓄積する。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1~3.国語科教育の現在	指導要領を理解し、国語教育の目的を認識する。
4~5.教職資格(中学校国語)取得まで	教育実習、介護等体験実習、学園内中学校授業見学等、免許取得までにしなければならないことと、その意義を理解する。
6~8.指導案の書き方	教育実習に於いて、不可欠なものである授業指導案について、基本的知識を身に付ける。
9~13.模擬授業(各自30分)	交替で授業者・生徒となって、授業の実践的訓練を行う。
14~23.模擬授業(各自50分)	先ず2回程度、30分の授業を行い、授業という作業に慣れもらおう。授業者となった学生は、指導案を作成し、テキストと共に全員に配布する。
24~26.指導案検討	教育実習の実際に合わせ、50分の模擬授業を行う授業の後、授業評価に関わる全員の討議、教員による講評を行う。
27~28.教育実習反省会準備	模擬授業の回数が確保できない場合は、補講を設定する。
29~30.読解力等向上演習	教育実習に出て行く履修者が増えてくると、残余の履修者での模擬授業が困難になる。この時期には指導案の作成を中心とした演習を行う。
	教育実習反省会の為の、発表資料の作成を行う。
	自らの実習を自己評価する意味でも、有益である。
	教員採用試験に向け、読解力の向上を図る。

V 使用テキスト・教材等

適宜プリントを配布する。

VI 参考書・参考資料

適宜指示する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
学習項目 配点比率(%) 合計 100			30	30	40
教材研究への努力			○	○	
教材の読解能力			○	○	
授業能力			○	○	○

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

年度末に行われる特別補講等、様々なイベントに積極的に参加すること。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

教職指導センター(1号館3F)を大いに活用して欲しい。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
英語科教育法		2	英	1	永倉由里

I 主題

教師を目指す強い意志を持つた学生を対象とし、英語教育の理念、理論および実践的な教授法を学ぶことにより、教育実習・採用試験に対応できる力を養う。

II 授業の到達目標

1. 英語教育に関する理念・理論を理解する。
2. 言語習得に関する理論と教授法を理解する。
3. 1,2を応用して教育実習に対応できる授業力を身につける。

III 授業の概要

本授業は、1年次後期より2年次前期までを通年科目として開講される。前半は英語教育に関する理論を、後半は教育実習に向けての実践指導法を中心に学んでいく。

IV 授業計画と内容

1年次後期 項目

1. 英語を学ぶこと、教えること
2. 英語の指導目標と内容
3. 学習者の要因
4. 教師の役割と良い教師の条件
5. 言語習得の理論上の諸問題
6. 英語指導の原理
7. 発音と文字と綴り字の指導
8. 語彙の指導
9. 文法の指導
10. リスニングの指導
11. スピーキングの指導
12. リーディングの指導
13. ライティングの指導
14. 言語技能を統合した指導
15. まとめ

2年次前期 項目

16. 教材研究と授業の準備
17. 授業案の作成と授業の進め方
18. 教材と機器の活用
19. ネイティブスピーカーの活用
20. テストと評価
21. 授業の展開と学習指導案(1)
22. 授業の展開と学習指導案(2)
23. 授業の展開と学習指導案(3)
24. 模擬授業とディスカッション(1)
25. 模擬授業とディスカッション(2)
26. 模擬授業とディスカッション(3)
27. 模擬授業とディスカッション(4)
28. 模擬授業とディスカッション(5)
29. これからの英語教育
30. まとめ

V 使用テキスト・教材等

新英語科教育法入門
中学英語教科書『Total English 2』

土屋澄男・広野威志 研究社
学校図書

VI 参考書・参考資料

中学校学習指導要領 解説—外国語編— 文部科学省 東京書籍

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
配点比率% 合計 100%		40	40	20	
英語教育の理念・理論の理解		○	○	○	
言語習得理論と教授法の理解		○	○	○	
授業案作成と授業力		○	○	○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

- ①模範授業 DVD 視聴+ミニレポート(10回)、②英語教育に関する諸問題についてのミニレポート(10回)、
③模擬授業の指導案作成とリハーサルなど。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

中学教育実習に見合うだけの英語力を有する者に限る。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
音楽科教育法		2	音	1	井上幸子

I 主題

この授業は中学校教諭二種「音楽」免許取得のための必修科目である。

II 授業の到達目標

- 指導要領を通して音楽教育について学び、音楽科教員としての基礎知識と技術を習得する。
- 教員に求められる基礎力(人前で話す力、自分の考えを持つ力、時間を組み立てる力、文書作成力、行事を運営する力など)を身につける。
- 教育現場のみならず、社会に適応できる基礎力を身につける。

III 授業の概要

この授業は、教員による講義、学生による模擬授業、模擬授業に対する学生同志のフィードバック(グループディスカッション)で構成される

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 教職課程履修上の心得・音楽教育略史	16. 授業実践①「青年期の発達特性・教材研究の視点」
2. これからの中等科音楽・音楽科の課題	17. 授業実践②「歌唱」
3. 学習指導要領解説①「目標」	18. 授業実践③「器楽」
4. 学習指導要領解説②「内容:A.表現」	19. 授業参観・第Ⅱ期教育実習心構え
5. 学習指導要領解説③「内容:B.鑑賞」	20. 授業実践④「創作」
6. 学習指導要領解説④ 「指導計画作成と内容の取扱い」	21. 授業実践⑤「鑑賞」 「表現と鑑賞の関連」
7. 学習指導要領解説⑤「共通事項」	22. (教育実習)個人指導:教材研究①
8. 教育課程の定義	23. (教育実習)個人指導:教材研究②
9. 指導計画①「年間指導計画」	24. (教育実習)個人指導:教材研究③
10. 指導計画②「学習指導案作成法 1」	25. 日本の伝統音楽
11. 指導計画③「学習指導案作成法 2」	26. 諸外国の音楽
12. 評価①「教育評価概論」	27. ポピュラー音楽
13. 評価②「観点」	28. 校種間・他教科・特別活動との連携
14. 評価③「方法」	29. 特色ある音楽教育法
15. 前半まとめ・第Ⅰ期教育実習心構え	30. 総まとめ

V 使用テキスト・教材等

中等科音楽教育法

音楽のおくりもの 中学音楽1、2・3(上下)、中学器楽

中学生の音楽1、2・3(上下)、中学生の器楽

音楽教育の実践

中学校学習指導要領解説・音楽編

中等科音楽教育研究会

音楽之友社

教育出版

教育芸術社

教育芸術社

教育芸術社

文部科学省

VI 参考書・参考資料

クラス内で指示する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	10	10	40	40	
授業実践				○	
授業案の書き方の理解			○		
指導要領の理解	○				
教職の心得		○			

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

初回授業時に説明。提出物に関しては、厳しく臨む。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

ピアノの弾き歌いができることが必須条件となるため、各自練習を怠らないこと。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
道徳教育		2	日英音	2	小長井邦男

I 主題

この授業では、道徳教育が「道徳の時間の指導」を要として、教育活動全体で行うことが求められていることを理解し、中学校における道徳教育の指導法を身につける。

II 授業の到達目標

- 1.道徳教育が豊かな心の育成の中心的な役割を担っていることを理解できる。
- 2.「道徳の時間の指導」の授業の基本形を理解できる。
- 3.全教育活動の中で行う道徳教育の具体を理解できる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者になるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校二種を取得するための必修科目である。

項目	内 容
1. 道徳教育改訂の要点	学習指導要領総則
2. 道徳教育の基本的なあり方	道徳の社会的役割
3. 道徳の目標	修身と道徳の違い
4. 道徳の内容	4つの視点と内容項目
5. 道徳の指導計画①	道徳教育の全体計画
6. 道徳の指導計画②	道徳の時間の年間指導計画
7. 学習指導案の内容と作成①	学習指導案の内容
8. 学習指導案の内容と作成②	学習指導案の基本形
9. 道徳の時間の指導①	道徳資料の問題点
10. 道徳の時間の指導②	道徳資料の問題点
11. 道徳の時間の指導③	道徳的判断力の育成
12. 道徳の時間の指導④	道徳的実践力の育成
13. 道徳の時間の指導⑤	道徳の授業の具体例「いじめ」
14. 道徳の時間の内容と方法①	模擬授業(展開前段のあり方)
15. 道徳の時間の内容と方法②	模擬授業(展開後段のあり方)

V 使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説 道徳編 文部科学省
その他プリントは講義中に配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100%	60	20		20	
道徳教育のねらいの理解	○	○		○	
「道徳の時間」の授業の基本形の理解	○	○		○	
全教育活動で行う意義の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
特別活動		2	日英音	2	小長井邦男

I 主題

この授業では、特別活動が学級・学校生活への適応や好ましい人間関係の形成を目指した教育活動であることを理解し、中学校における特別活動の指導法を身につける。

II 授業の到達目標

1. 学級・学校生活への適応のためにガイダンスの機能の大切さを理解できる。
2. 好ましい人間関係を築く力を育成する体験活動の大切さを理解できる。
3. 学級活動、生徒指導、学校行事のねらいを理解できる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者になるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校二種を取得するための必修科目である。

項目

内 容

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 特別活動の教育的な意義 | 特別活動全体のねらい |
| 2. 特別活動の内容とねらい | 学級活動 生徒会活動 学校行事 |
| 3. 学級活動① | 学級活動の内容と特徴 |
| 4. 学級活動② | 学級活動の具体例 |
| 5. 生徒会活動① | 生徒会活動の内容と特徴 |
| 6. 生徒会活動② | 生徒会活動の具体例 |
| 7. 学校行事① | 学校行事の内容と特徴 |
| 8. 学校行事② | 学校行事の具体例 |
| 9. キャリア教育 | 職業体験学習 |
| 10. 指導計画の作成に当たっての配慮事項 | ガイダンスの機能 年間指導計画 |
| 11. 内容の取扱いについての配慮事項① | 学級活動について |
| 12. 内容の取扱いについての配慮事項② | 生徒会活動にAAについて |
| 13. 内容の取扱いについての配慮事項③ | 学校行事について |
| 14. 国旗及び国歌の取扱い | 入学式や卒業式などでの取扱い |
| 15. 特別活動の評価 | 指導要録への記入等 |

V 使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説 特別活動編

文部科学省

その他プリントは講義中に配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100%	60	20		20	
特別活動の意義やねらいの理解	○	○		○	
各活動の内容やねらいの理解	○	○		○	
改善の具体的な事項の背景の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教育方法論		1	日英音	2	小長井邦男

I 主題

この授業では、教育方法や教育評価について学び、学習指導の充実のためにPDCAサイクルに取り組む学校の教育方法の基礎知識を身につける。

II 授業の到達目標

1. 教育課程の編成に基づき授業が意図的・計画的に行われていることを理解できる。
2. 教育方法や教育技術についての意図や工夫を理解できる。
3. P計画、D実施、C点検、A改善により、教育課程は進化していることを理解できる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像などから、指導者となるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校二種を取得するための選択科目である。

項目	内容
1. 教育方法史①	ルソー、ペスタロッチ、ヘルバートの教授法
2. 教育方法史②	科学技術教育の現代化
3. カリキュラム論①	学習指導要領と教育課程
4. カリキュラム論②	教育課程へ編成のあり方
5. カリキュラム論③	教科書の役割
6. 授業論①	学習指導案の意義と作成手順
7. 授業論②	教材研究と教材解釈
8. 授業論③	展開のある授業
9. 授業論④	発問の種類と機能
10. 教育の技術①	教育技術のいろいろ
11. 教育の技術②	板書とノート指導のあり方
12. 教育の技術③	机間巡回から机感指導へ
13. 教育の技術④	教育メディアの活用法
14. 学力と評価	指導と評価の一体化
15. 特別支援教育	理念と教育方法

V 使用テキスト・教材等

教育の方法と技術(教育学のポイント・シリーズ) 柴田義松 山崎準二編 学文社
その他プリントは講義中配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100%	60	20		20	
意図的・計画的な教育課程の理解	○	○		○	
授業の創意工夫のポイントの理解	○	○		○	
評価の方法や意義の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
生徒指導		2	日英音	1	小長井邦男

I 主題

この授業では、生徒指導の理論と実際を理解し、教師としての生徒指導の方法や心構えを身につける。

II 授業の到達目標

1. 生徒指導のねらいの中心である自己指導力について理解できる。
2. 生徒への対応の基本であるカウンセリングマインドについて理解できる。
3. 積極的な生徒指導の意味や具体を理解できる。

III 授業の概要

教科書、配付する資料や映像から、指導者になるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校二種を取得するための必修科目である。

項目	内 容
1. 生徒指導の意義と原理①	学習指導要領総則
2. 生徒指導の意義と原理②	発達観と指導観
3. 教育課程と生徒指導	教育活動全体で行う生徒指導の具体
4. 生徒の心理と生徒理解	青年期の発達と心理
5. 学校における生徒指導体制	積極的な生徒指導の実際
6. 教育相談	進路指導と生徒指導との関係
7. 生徒指導の進め方	教職員の役割と対応のあり方
8. 問題行動の概観と指導のあり方	早期発見と効果的な指導
9. 発達障害への対応	発達障害の理解と対応
10. 非行への対応	性に関する課題と対応
11. 児童虐待への対応	身体的な虐待、ネグレクトの実際
12. いじめへの対応	いじめの定義と対策
13. 不登校への対応	不登校の定義と対策
14. 家出、暴力行為などへの対応	要因と対策
15. 生徒指導に関する法制度	懲戒と体罰、部活動の指導

V 使用テキスト・教材等

生徒指導提要

文部科学省

教育図書

その他プリントは講義中に配付

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100%	60	20		20	
自己指導力の意味や意義の理解	○	○		○	
生徒指導の方法の理解	○	○		○	
様々な問題行動の背景の理解	○	○		○	
学校の組織的対応の理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教育相談		2	日英音	2	金子泰之

I 主題

教育相談の役割とカウンセリングの理論・方法を獲得する

II 授業の到達目標

1. 教育現場における教育相談の役割を理解する
2. カウンセリングに関する理論や技法の概要を実習から理解する
3. 学校現場の問題をカウンセリングの理論や技法をもとに考えられるようになる

III 授業の概要

教育相談に関する理解を深め、実習からカウンセリングの基礎を学ぶ。

IV 授業計画と内容

項目	内 容
1. 教育相談とは	教育相談の役割と意義を学ぶ
2. 教育相談と発達	子どもの発達と教育相談
3. カウンセリングと自己	自分自身への気づきを深める
4. 倾聴(1)	傾聴に関する実習
5. 倾聴(2)	傾聴と話のうながし方を学ぶ
6. 言語と非言語のメッセージ(1)	言語と非言語の違いに関する実習
7. 言語と非言語のメッセージ(2)	非言語のメッセージの役割を学ぶ
8. 教育相談における信頼関係(1)	信頼関係の重要性に関する実習
9. 教育相談における信頼関係(2)	信頼関係の築き方を学ぶ
10. カウンセリングと主訴(1)	主訴を引き出すことに関する実習
11. カウンセリングと主訴(2)	主訴を引き出す方法と重要性を学ぶ
12. 問題解決(1)	問題の見方と解決方法に関する実習
13. 問題解決(2)	様々なカウンセリング技法を学ぶ
14. 校内での連携	校内での連携方法に関する実習
15. 関係機関との連携	外部機関との連携方法を学ぶ

V 使用テキスト・教材等

授業中に資料を配布する。

VI 参考書・参考資料

必要に応じて授業中に参考書を案内する。

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
学習項目					
配点比率(%) 合計 100	30	10	30	30	
教育相談の基礎と役割の理解	○	○			
カウンセリングに関する技法の習得			○	○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

教育に関する記事やニュースに目を通しておくこと

前回の授業で配布した資料を読み返し、復習しておくこと

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

実習には意欲的に参加すること。意見を求められたら積極的に発言すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教育実習		(5)	日英音	1	教務委員会各科教職担当教員

I 主題

この実習授業では、中学校教諭(一種及び二種)免許状を取得するため、教員としての指導法を学校現場で学び、教員志望の意志を強固なものにする。

II 授業の到達目標

1. 学習指導の基礎を身につけることができる。
2. 生徒指導の基礎を身につけることができる。
3. 教員志望の意志を強固なものにすることができます。

III 授業の概要

母校などの中学校で実習をおして、指導者となるための資質を高める。

IV 授業計画と内容

中学校教諭免許状取得の教育実習は、関係の法律に従い次のように行う。

項目	内 容
1. I期教育実習事前指導	
① 教職過程説明会	1年次 4月
② 教育実習事前講義・個別指導	1年次 11月～1月
2. I期教育実習(観察・参加実習)2週間	1年次 2月
3. I期教育実習事後指導	1年次 3月
4. II期教育実習事前指導・個別指導	2年次 4月～5月
5. II期教育実習(母校での実習)2週間	2年次 5月～6月
6. II期教育実習事後指導	
反省会、反省記録の作成	2年次 6月下旬
7. 介護等体験実習事前指導	2年次 7月上旬
8. 介護等体験実習	2年次 8月～9月
9. 介護等体験実習事後指導	2年次 10月上旬

V 使用テキスト・教材等

実習校が指定する教科書など

VI 参考書・参考資料

教職に関する科目的授業記録や配付された資料など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他(実習)
配点比率(%) 合計 100%				20	80
I期教育実習				○	○
II期教育実習				○	○
介護等体験実習				○	○

VIII 授業時間外の学習(予習・復習等)

新聞やインターネットで「学校教育」に関する記事に目を通し、教育現場における諸問題に常に敏感でいること。また、常に教材研究を怠らないこと。

IX その他(履修上の注意、前提条件等)

事前事後指導等に無断で欠席した場合には、教職課程を辞退したとみなすので注意すること。

授業科目名	単位数		学科	年次	担当教員
	必修	選択			
教職実践演習（中学校）		[2]	日英音	2	小長井邦男

I 主題

この授業では、2回の教育実習での成果や課題を整理し、さらに解明したい問題を出し合い、実践的な演習を通して教師に必要とされる資質をいっそう高める。

II 授業の到達目標

1. 学習指導、生徒指導、道徳指導などの課題を見つけることができる。
2. 課題解決のために、共に考えを出し合うことができる。
3. 学校の使命や教師の使命が具体的に分かることができる。

III 授業の概要

教育実習での成果や課題から、新たな問題を見い出し、それらについて自分の考えを出し合い、協議し、指導者としての資質を高める。

IV 授業計画と内容

この授業は、教職免許中学校二種を取得するための必修科目である。

項目	内容
1. 教育実習から学ぶ	教育行政、中学校経験者の講義
2. 教職実践演習の資料づくり①	分担計画
3. 教職実践演習の資料づくり②	報告書作成
4. 学習指導に関する報告と協議	学習指導に関する課題
5. 生徒指導に関する報告と協議	生徒指導に関する課題
6. 特別活動に関する報告と協議	特別活動に関する課題
7. 道徳指導に関する報告と協議	道徳指導に関する課題
8. 事例研究「不登校への対応」①	班集団で協議(問題把握と関係図)
9. 事例研究「不登校への対応」②	全体での協議(対応のあり方)
10. 事例研究「いじめへの対応」①	班集団での協議(問題把握と関係図)
11. 事例研究「いじめへの対応」②	全体での協議(対応のあり方)
12. 事例研究「非行への対応」①	班集団での協議(問題把握と関係図)
13. 事例研究「非行への対応」②	全体での協議(対応のあり方)
14. 共同研究・模擬授業①	学校行事の実施計画案の作成
15. 共同研究・模擬授業②	学校行事の実施計画案の提出と協議

V 使用テキスト・教材等

中学校学習指導要領解説 総則編
その他プリントは講義中に配付

文部科学省

VI 参考書・参考資料

文部科学省が作成した学習指導要領、文部科学白書、生徒指導提要など

VII 成績評価の方法及び基準

成績評価方法 学習項目	試験	小テスト 小レポート	成果発表 作品	授業態度	その他 ()
配点比率(%) 合計 100%	60	20		20	
問題行動への対応ポイントの理解	○	○		○	
指導案の重要なポイントの理解	○	○		○	
学校現場の取り組みの理解	○	○		○	

VIII 授業時間外の学習（予習・復習等）

図書館、コンピュータを活用し、教育情報を収集する。

IX その他（履修上の注意、前提条件等）

配付した資料を保存し、試験に備えること。